

「Tsunashima サステイナブル・スマートタウン」の次世代型マンション
体感型モデルルームでスマートタウンの次世代の暮らしを提案



Tsunashima SST 協議会(代表幹事:パナソニック株式会社(以下、パナソニック)、野村不動産株式会社(以下、野村不動産))は、Tsunashima サステイナブル・スマートタウン(所在地:神奈川県横浜市港北区綱島東、以下 Tsunashima SST)内の次世代型マンション「プラウド綱島 SST」のモデルルームにおいて、住戸に標準配備される IoT 機器を活用した住まい方や、Tsunashima SST のまちづくりコンセプトを、プロジェクションマッピングやデジタルサイネージなどパナソニックの空間演出ソリューションを活用し提案します。

パナソニックと野村不動産は、「住まいをコントロールするデバイス」として、パナソニック製プライベート・ビエラ 住宅機器コントローラー(マンション HA 連携モデル)の活用を共同で推進し、各住戸に標準配備します。持ち運び可能な一つのデバイスで、住戸内のどのエリアからでもテレビ視聴、インターホン応答(応答中に共用玄関の解錠可能)、住戸玄関の施解錠、お風呂のお湯張り、リビングエアコンなどの制御、エネルギー情報の見える化を実現します。住宅機器コントローラーから、機器操作メニューの画面設定をカスタマイズすることで、ボタン一つでエアコンや照明(オプション設定)を一括 OFF にするなど、忙しい日常のシーンに合わせた使い方も可能となります。



プライベート・ビエラ 住宅機器コントローラー
(マンション HA 連携モデル)

また、Tsunashima SST の環境目標達成に向けて、マンション全体のエネルギーを電気に一元化し、各住戸に AiSEG 対応パナソニック製エコキュートや省エネタイプのアコンなどを装備、野村不動産が導入する次世代型エネルギーマネジメントシステム「エネコックe」とともに、CO2 と光熱費削減の両立を図ります。ほかにも、各住戸に、換気機能付サッシ・玄関ドアを設け、風の通り道を創るなど、自然の力を活かした「パッシブ設計」と、柱や梁のないすっきりとした間取りや高天井を実現する「アウトポール設計」を採用、パナソニックによる内装一括施工と合わせ、光や風を最大限に取り入れながら機能性を兼ね備えた生活空間を実現します。

Tsunashima SST 協議会は、今回一般公開を開始したモデルルームにおいて、デジタルサイネージやプロジェクションマッピングなどを活用した新たな体感型訴求により、スマートタウンの次世代の暮らしを発信し、2018 年のまちびらきに向けて、持続可能な魅力あるまちづくりを推進していきます。



パナソニック製デジタルサイネージを活用した提案活動



モデルルームの内観

【Tsunashima SST 概要】

名称：Tsunashima サステイナブル・スマートタウン

所在地：神奈川県横浜市港北区綱島東 4 丁目

敷地面積：約 37,900 平方メートル

概要：

スマートタウンマネジメント拠点：敷地面積 約 3,500 平方メートル

- ・水素活用拠点
- ・タウンエネルギーセンター
- ・国際学生寮

スマート集合住宅：敷地面積 約 3,600 平方メートル

スマート商業施設：敷地面積 約 18,300 平方メートル

スマート技術開発施設：敷地面積 約 12,500 平方メートル

スケジュール：2018 年春 まちびらき

◆プレスリリース

「Tsunashima サステイナブル・スマートタウン」まちづくり構想を発表(2016 年 03 月 28 日)

<http://news.panasonic.com/jp/press/data/2016/03/jn160328-3/jn160328-3-1.pdf>

以上